



『発達障がいを含めた子どもたちの多様な困り感』について考えてみましょう！

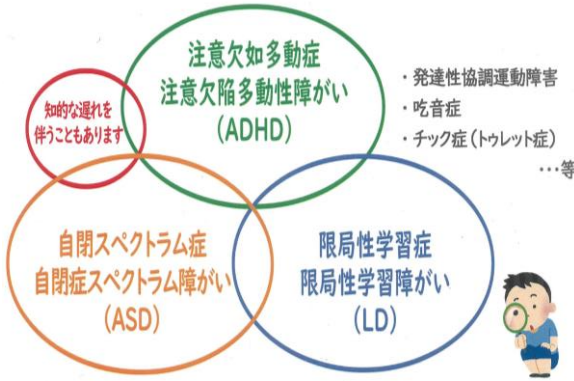
「発達障がい」という言葉が社会全体で広く知られ、学校現場をはじめ、医療や福祉などの各分野においても理解と支援が進んでいます。発達障がいには、自閉スペクトラム症(ASD)や注意欠如多動症(ADHD)、学習障がい(LD)などがあります。

近年では、発達障がいの診断には至らないまでも、それと共通した困り感があったり、複数の困り感を抱えていたりする子どもたちが増えています。そこで、今回はそれら多様な困り感を有する子どもたちにスポットを当てて、お話を進めていきます。



レオ先生

前回のSTEPでは、ユニバーサルデザイン(UD)について、授業でのUD・教室環境のUD・人的環境のUDという3つの視点から教えていただきました。また、発達障がいなど、子どもたちの実態に応じて個別の支援である合理的配慮を行う必要があることも学びました。



そうでしたね。教室で、あるいは学校の中で、ユニバーサルデザイン(UD)の手立てを適切に取り入れていくことが、子どもたちの生活や学習へのサポートとなり、「安全・安心に学べる学級づくり」につながっていく、というお話をしましたね。

レオ先生のクラスでもUDによる学級全体への支援がなされているようですね。では、「合理的配慮」についてはどうですか？ 具体的な取り組みをされていたら教えて下さい。



はい、「合理的配慮」についても、子どもたちや保護者の思いを受けながら、実践の真っ最中です。例えば、自閉スペクトラム症(ASD)の子どもへの個別的な支援の手立てとして、次のことをしています。

- 1日の流れや授業時の活動の流れを文字やイラストで示し、見通しをもたせる。
- 順番を待つ場面では、具体的に「あと〇分」「あと〇人」など、時間や順番の見通しをもたせる。
- 気持ちが落ち着かない時のために、クールダウンできる場所を用意する。
- 音などへの刺激の過敏さへの手立てとして、耳栓やイヤーマフを使用する。

素晴らしい！子どもの困り感や障がいの特性を踏まえた良い取り組みをされていますね。



ありがとうございます！あと、私のクラスには学習障がい(LD)の診断のある子どももいます。特に「読むこと」を苦手になっているようなのですが、何か良い支援の手立てがあれば教えていただけませんか…。



「読むこと」を苦手になっている子どもたちへの支援の手立てとして、例えば次のことが挙げられます。

- 漢字にふりがなをつける。(ルビをうつ。)
- 単語や文節ごとに横線を入れ、句切って読む。
- スリット(穴)をあけた厚紙や定規を用意して、読む箇所集中できるようにする。
- 要点やキーワードに印をつけて提示する。 などです。ぜひ試みていただきたいと思います。



なるほど！よく分かりました。早速、取り組んでみます!!



近年においては、発達障がいのある子をはじめ、「グレーゾーン」の子たちなど、困り感を抱く子どもたちが増え、その様子も多様になってきています。レオ先生のクラスでも実感されているところではないですか？



実感しています。先ほど相談したASDやLDの診断のある子の他にも気がかりな子どもたちがいます。ところで、「グレーゾーン」について詳しくはわからないので、教えていただけますか？

「グレーゾーン」とは、時間をかけて問診や発達検査などを受けてきたものの、結局、障がいというほどではなく、境界域にあるとされる状態のことです。グレーゾーンの子たちには発達障がいと一部共通する特性があるために、例えば「人との関わりが苦手」、「片付けが苦手で忘れ物も多い」、「学習に遅れがある」など、発達障がいの場合とよく似た困り感が生じることがあります。



グレーゾーンの場合、一般的にその子の困り感は「それほど苦しむような深刻なものではない」、と思われがちです。けれども、実際にはそうではなく、**グレーゾーンの子たちは医療機関などで障がいの診断がなされた子どもと同じくらいに生きづらさを感じていたり、時には、より深刻な困難を抱えていたりすることがあります。**そのため、グレーゾーンの子たちには、学習意欲の低下や不登校傾向など、二次的な困難(問題)が生じてしまうことも少なくありません。



う〜ん。大切なことは、発達障がいなどの診断の有無に関わらず、子どもたちに寄り添い、それぞれのおかれた状況や困り感を正しく受け止めていくことかもしれないな…。

その通りです。子どもたちへの支援の前提として意識しておきたいことは、「**特性**」への**理解と対応を大切に**していくということです。
子どもたちはそれぞれに発達の様子が異なり、能力や性格を含めた個性も様々です。子どもたち一人一人の特性や困り感をよく捉えた上で、**本人が得意なことや好きなことを生かした学習活動を通して、達成感や成果を味わわせ、自信を高められるようにサポートしていくことが重要**ですね。



ありがとうございます。これからも、子どもたちが笑顔で、自信をもってがんばっていくことができるように、子どもたちと向き合いながら、適切な手立てを考えて取り組んでいきます!!



さらに学び続ける教師、レオ先生であった。

【参考文献】

本田秀夫 著 「学校の中の発達障害」 SBクリエイティブ株式会社
岡田尊司 著 「発達障害 グレーゾーン」 SBクリエイティブ株式会社



【令和5年度第3回の開催日】 10月24日(火) 16:15~17:00(17:00~17:15 フリートーク)



第3回 R-cafe テーマ
「学校でみられる子どもたちの多様な困り感について」
★ 学校名_お名前 (〇〇小_△△) で参加してください。
★ 途中入室・退室 OK です。飲み物準備で、どなたでもお気軽にご参加ください。